

# 道博協ニュース

## 第20号

発行所 昭和62年9月1日  
北海道博物館協会  
事務局 札幌市白石区厚別町小野幌  
北海道開拓記念館内  
電話 011-(898)-0456

### 第35回日博協全国大会

#### 10月6・7日の両日、釧路市で

日本博物館協会主催の、第35回全国博物館大会は、釧路湿原の国立公園指定でわかきかえる釧路市でひらかれます。日程は10月6日(火)、7日(水)の両日。日博協からそれぞれご案内が届いていることとおもいます。

四分科会が開設され、討議の時間も、のべ五時間半で、十分にとられています。分科会は、人文系大規模、自然系大規模、人文系中小規模、自然系中小規模の四つです。大会テーマにそってはなしあつていただきます。

#### ●大会テーマのねらい

釧路で全国博物館大会がひらかれるのは、昭和32年の第5回大会以来30年ぶり。北海道内では、函館(第14回)、札幌(第20回)につき四回目です。

ここでは、大会の議論を深めるうえから、テーマ設定のねらいについて紹介いたします。

#### ●テーマ・講演・分科会

大会のテーマは、『博物館を巡る環境と博物館が作りだす環境』。記念講演は『タンチョウの世界』と題して、釧路はもとより、世界各地でタンチョウの生態写真を撮りつづけている、林田恒夫氏(日本野鳥の会評議員・釧路市立博物館協議会委員)に、お願いしています。

最近の全国大会のテーマをみると、30回松山大会「『生涯教育』に対する博物館の適応とあり方」、32回・33回盛岡と熱海大会「教育改革と博物館」、34回福岡大会「我が国博物館の今迄のあゆみと今後の展望」など、博物館をとりまく教育行政や社会的要請という問題の提起を、行ってきました。

今回、テーマを設定するにあたり、次の五項目の視点から検討いたしました。

- 一、開催地が北海道の釧路市である。
- 二、北海道は他の都府県と自然及び歴史が大きく異なる。
- 三、こうした北海道の特性を鮮明にする必要がある。(そのことが北海道をベースに、活動を展開している、博物館関係者に力をあたえる議論が期待できる)。
- 四、なおかつ、全国共通の課題となるテーマであること。
- 五、研修視察ツアーと大会テーマとが一致し、有機的関連をもつ必要がある。

以上のような視点を提起したうえで、自然的・歴史的・人的環境と博物館のありかたを、むしろ博物館の内側から検討してみよう、あるいは地域にたいし博物館のはたせる役割を、実例にそくして積極的に考えて行こうとの、立場をとったものであります。

こうすることで、

- (一) 博物館は日本文化の成り立ちと自然環境のかかわりを

どうとらえ、つたえてゆくか。

- (二) 博物館は地方文化の成り立ちと地域環境のかかわりをどうとらえ、つたえてゆくか。
- (三) 環境問題と博物館活動の整合性をどうはかるか(文化財保護・環境保全問題にたいして、調査研究機関及び教育機関としての博物館の存在)。
- (四) あるいは、博物館の機能分化の諸問題(博物館のネット・ワーク、情報・指導サービスなど)。

それぞれ(一)~(四)、もしくはそれ以外の当面する諸課題について、具体的な議論を展開していただきたいものと考えております。

#### ●たくさんのご参加を

これまで、他府県で開催の大会には遠隔地であることもあって、本道からの参加はかぎられていました。北海道の博物館の当面する課題について、多くの示唆がえられる大会にしたいと努力しています。この機会にたくさんのご参加をお願いいたします。

(釧路市立博物館)

## 北海道博物館協会会長に就任して

渡邊左武郎



今年六月に増毛町で開催された北海道博物館協会の総会

において、長らく会長として会の発展に尽力して来られた中川敏先生が引退され、後任として私が会長に推挙されました。まことに光栄至極です。

しかし私が北海道開拓記念館長に就任したのは、昨年の四月で、それまでは全く博物館とは無縁の人間でしたので、果して会長の職責を全うし得るか疑問ですが、開拓記念館には長く事務局が置かれ、博物館を熟知した学芸職員が助けてくれますので、その点は安心してこれから私も勉強していきたいと思っておりますので、会員各位の御協力、御鞭撻をお願いします。

私はずっと大学で暮らして来た人間ですが、退官後は博物館と共に社会教育施設である

図書館にも協議会委員として今日まで関係して来ました。

ところが今度はいよいよ博物館に関係してみても、その種類、規模の極めて多岐にわたっていることを知って驚かざるを得なかったのであります。

私としては先ずわが国の博物館の活動の現況を理解することが必要でしたので、開拓記念館に着任後、努めて博物館関係の会議、集会に参加して来ました。昨年十一月の福

岡で開かれた全国博物館大会、今年の六月東京での全国博物館協会の役員会、支部長会議、公立館長会議に出席して強く感じたことは、北海道の博物館活動が極めて高く評価されていることでした。

北海道における博物館活動の中心をなしているのは、いうまでもなく北海道博物館協会であり、昭和三十五年に設立されて以来既に二十七年

を経過し、現在団体会員数が一〇六に達しているその活動が高く評価されているのも当

然であろうと思えます。

博物館の会議で常に課題になるのは学芸職員の問題であることは、私もすぐ気が付いたことであるが、道博協に学芸職員部会が設置されていて、特に学芸職員の連携と研修を目的として活動していることは、まことに喜ばしく、将来一層の活躍を期待しています。

昭和二十六年に博物館法が制定されてから既に三十五年を越え、社会・経済の発展に対応する博物館のあり方も当然変るべきであろうというこ

とは、経験の少ない私でもどうやら推察されるところです。今年の六月に開かれた日博協の会議の折の懇親会の挨拶で、文部省の沢田社会教育局長から、非公式ながらはじめて社会教育局の改編から、更には博物館法の改定が行なわれることへの気運が兆していることを示唆するような発言がありました。

確かに今わが国の博物館は大事な転換期にさしかかっているのだと思います。そして博物館自身が、これからの博

物館のあり方はどうあるべきであるかの考えを早く相談し合つて固めることが必要であると思ひます。

日博協、そして道博協の持つ意義は、今後益々重要になると私は考えております。

## 第26回北海道博物館大会終る

第二十六回北海道博物館大会は、去る六月十二、十三日の両日増毛町公民館を会場に全道から博物館・園・教育関係者等、百十七名が参加して開催され、成功裡のうちに終了しました。

第一日は開会式、日博協専務理事毛利正夫氏の特別報告、次いで札幌大学講師石垣福雄氏による「北海道の方言について」と題した講演を拝聴しました。午後は「博物館と学校教育の提携をどうすすめるか」の大会テーマのもとに三名の方々から提言をうけ、これをもとに質疑・討論に入りました。これらの詳細については追って大会報告書として刊行される予定です。第二日は、総会、閉会式のと増毛町エ

ネルギー科学館、史跡などを訪ね、午後散会しました。なお、総会での主な経過は次のとおりです。

## ◆役員改選

—中川会長引退、渡邊左武郎開拓記念館長を新会長に選出—

後記のとおり新役員が選出され、昭和52年6月以来十年間に亘り当協会の会長としての会の発展に尽された中川氏に感謝状が贈呈されました。

## ◆会則の改正

会則の改正は原案どおり承認、可決されました。なお、会則施行細則の廃止は昭和62年3月の役員会で決定されました。この細則は主として役員員の選出方法・任期について規定していますが、現状では必ずしも細則で定める必要がない部分や、実態に合わない部分があるので、最少必要部分分は会則第10条で謳うことにして、廃止することになった

ものです。

そのほか、総会において、細則が廃止されると、役員選出の基準がなくなり、不都合

が生じないかという趣旨の疑問が出されました。このことについては、大会前日の第一回役員会において、これまでの細則をも念頭において、「役員改選の基準」が審議され、おおよそ、次のような方針が定められました。

(1) 現会長の中川氏は既に引退を表明されているので顧問に推薦する。

(2) 後任会長は会則にしたがって事務局担当団体会員の長とする。

(3) 副会長は主として団体会員から選ぶ。

(4) 道内博物館のネットワークを推進するため、道央・旭川・函館・北網・釧路・帯広の各地域(経済・文化圏)の中核館から選ぶ。

(5) 各種館園(博物館・資料館等、美術館、動物園・水族館、科学館等)から選ぶ。

(6) 私立館の役員をふやす。

(7) 部会代表理事は従来どおり二名とする。

(8) 個人会員は現在(五名)

より減らす。団体館園に勤務しない会員からも選ぶ。

◆北海道博物館協会役員一覧

昭和六十二年度  
増毛町で開催された第二十

昭和三十二年度アイヌ民族文化  
財学芸職員等研修会「アイヌ文化セミナー」終る

◆負担金(会費)の増額

会則第10条の改正によって昭和63年から会費が増額され、

六回北海道博物館大会にあわせて、昭和六十二年の学芸職員部会総会が開かれました。

6月の道博協大会の際に案内しました第2回のセミナー(主催・北海道ウタリ協会、共催・白老民族文化伝承保存財団と道博協、後援・道教委と白老町教委)は、予定どおり8月5日～7日の3日間、

二〇、〇〇〇円以上となりまして、現行の会費は昭和58年度に改正されたもので、満五年ぶりの値上げになり、約八〇万円の増収が見込まれます。

この増収分は、八月一日に開催された第二回役員会での協議の結果、会員の皆さんの協力を得て作成している「北海道博物館園等現況報告書」、各種情報資料・報告書の刊行、日博協・部会・博物館地域協議会・各種機関および団体との連絡・提携の強化、大会および研修事業の充実、役員会費の増額、賃金・消耗品費・通信運搬費等の増額に充当することにになりました。

議事は、会長挨拶のあと①昭和六十一年度活動報告、②同収支決算報告、③昭和六十二年活動計画案、④同収支予算案、⑤学芸職員部会研修会の開催、⑥シベリア・極東地区博物館研修旅行についてが提案され、原案通り承認されました。本年度の学芸職員

白老中央公民館とアイヌ民族博物館を会場に行なわれまして。受講者は約70名で、講義のテーマ・講師および見学施設は次のとおりでした。

立旭川郷土博物館、山丸武雄(アイヌ民族博物館)、理事青木隆夫(夕張市石炭博物館)、加納祐之(市立函館博物館)、金田寿夫(札幌市

幌市青少年科学館)、木内和博(優良良織工芸館)、北川芳男(静修短期大学)、黒崎康雄(浦河町郷土博物館協議会)、佐藤一夫(苫小牧市博

物館)、高井隆夫(小樽市博物館)、中村齋(北海道開拓拓記念館)、副部長 佐藤一夫(苫小牧市博)

を求めているかー貝沢正、北海道旧土人保護法に関わる諸問題ー河野本道、アイヌ民族資料の分類整理の実際ー出利葉浩司、「アイヌ研究史」から「アイヌ学」へー藤本英夫、二風谷に生きてーアイヌ研究

の連絡・提携の強化、大会および研修事業の充実、役員会費の増額、賃金・消耗品費・通信運搬費等の増額に充当することにになりました。

なにとぞ値上げの趣旨を御理解いただき、御協力下さる

要介(開拓記念館友の会)、庄崎之男(岩内町郷土館)

谷岡康孝(浦河町郷土博)が選任されました。

井正史(北網圏北見文化センター)、松橋時一(帯広百年記念館)、米村哲英(網走市文化専門委員)、監事 阿部

杉浦重信(富良野市郷土館)、

とアイヌ民族一佐々木史郎、製作実演ーサラニブー川上まつ子、アイヌ民族博物館、仙

台藩白老元陣屋資料館。

文化専門委員)、監事 阿部

杉浦重信(富良野市郷土館)、

とアイヌ民族一佐々木史郎、

製作実演ーサラニブー川上まつ子、アイヌ民族博物館、仙

文化専門委員)、監事 阿部

杉浦重信(富良野市郷土館)、

とアイヌ民族一佐々木史郎、

製作実演ーサラニブー川上まつ子、アイヌ民族博物館、仙

## 協会長退任にあたって 中川 敏

ない時代と現在

第二十六回北海道博物館大会が、去る昭和六十二年六月十二日、十三日の二日間、増毛町公民館において、町長さん、日博協、毛利専務さんなど、ご来賓の方々をお迎えし、多数の会員のご参加により盛大に開催され、大いなる成果を挙げ終了したことを喜んでいる。

この大会の総会において、長い間の理事、会長を無事退任することの出来たのも役員及び会員各位のご協力のお蔭と心より感謝している。

当協会が創立されてから、早いもので四分の一世紀を経過しており、一応の歴史の重みを感じた協会になったと思う。

最初の十年間ぐらいの大会は、予算がない、人がいない、施設が古くて物置のようなどなどであった。そして大会終了時には、「専門の館長を置いてくれ」、「学芸員職員をお願いしてくれ」、「新しい施設、博物館を作ってくれ」、「予算を

くれ」などが決議され、決議文を作成し、代表が道教育庁に陳情するのが、常であった。

現代の博物館は立派な施設は、又それなりに知恵を出し合い、総意を集めてそれなりの成果を挙げていたと思われる。

「北の時代」といわれ、目が北に向いてくると同時に、寿命の延びなどにより、老人対策、生涯教育、生きがい論など、社会教育の重大性が再認識されてきた。この一つの現われとして各市町村の社会教育施設の充実が考えられ開基記念事業として、社会教育施設、博物館などの新築があり、博物館ブームとも呼ばれるようになった。

昭和三十年後半、北海道には動物園が二ヶ所、札幌市と帯広市であり、地方の子ども達は動物園を訪れるのが大変な時代であった。その当時、円山動物園は地方の市町村より要請があれば動物展示に支障のないかぎり、移動動物園を編成したものである。遠くは、大樹町、富良野市、夕張市など、四十五年頃まで約二十数回実施し、その地域の人々に喜んでいただいた。

円山動物園開園二十周年記念事業として、世界のは虫類、こん虫展示を計画した。は虫類を集めるのは困難はなかったが、こん虫標本をさがすのに苦労した。手をつくして調査したところ、小樽博物館に素晴らしい世界のは虫類の標本が所蔵されているのを知り、当時学芸員だった竹田さん（現在道教委）が貸出してくださり、二ヶ月の長期にわたる記念事業が最高の成績をあげて終了した。その結果、昭和四十七年に数億円の予算では虫類、こん虫館が出来、いま冬でもチョウチョウが飛

びコオロギが鳴く、子ども達ののたのしい施設となっている。現在は豊かな世の中であるが、お互い知恵を出し合い、助けあって、情報を交換しながら博物館活動に努力をされることを望んでいる。

### 『シベリア・極東博物館 視察研修旅行』終える

学芸職員部会が企画したシベリア・極東博物館視察研修団は、行程の後半で若干のハプニングがあったが八月十六日全員元気で帰道した。

八月二日にバイカル号で小樽を出発後、ハバロフスク、イルクーツク、ノボシビルスクと各地の博物館の視察を続け、この間、博物館職員との交流も活発に行なわれた。何と言ってもシベリアの広大な自然と文化を自分の眼で確かめたことは大きな収穫であった。後半、ノボシビルスクで濃霧のため空港閉鎖に合い、二日遅れて十六日に千歳空港に着くという予想外のこともあったが全員元気で帰国したのは何よりであった。（野村崇）

### 助け合う

今までの大会テーマを考え、狭い地域社会との連携「豊かな町づくりと博物館」、「地域社会の振興と博物館の役割」などであったように思われる。最近「広域生活圏と博物館のネットワークづくり」となり広い地域社会が対象になってきたように思う。

## 第26回北海道博物館大会

## 参加記

今回は個人的に少しお手伝いしている市立函館博物館館長の車に乗せて頂き昨年以來待ちに待っていた北海道博物館大会に参加しました。

前日は朝八時に家を出、日本海沿いに行く最短コースで海岸の珍しい景色を見ながら午後六時半頃ホテル増毛へ到着。一泊で申込みのところ二泊になったため事務局のお計らいでなんとかホテルに泊る事ができました。初参加という事で知らない人ばかりで最初は緊張しましたが互いに博物館が好き同士であり話が進み夜が更けていきました。

翌日は町公民館で大会が始まりました。開会式中中川会長の挨拶で博物館ボランティアの重要性を説かれ、それを媒体として館の活性化を図るという事に心強くなり、本間町長の挨拶では「ホテルを建てたから次は博物館を」ということばに多少リッブサービスを感じながらも博物館の理

解者がまた一人増え嬉しく思いました。

毛利理事の特別報告では国内の博物館の概況や臨教審答申中で博物館の役割が大きいにもかかわらずさほど重視されなかった事、又政府に対し館の活性化のため増築や博物館ボランティアの育成のための補助金制度を設けるよう働きかけていく事、ここ三、四年の博物館の漸増、大型化傾向の中で入館者が減少傾向にある点を憂慮し、きめ細かいリ・クリエイティブの施設としての活動の重要性、ICOMH本総会への参加による視野を

地域から世界へ広げる事など非常に示唆に富んだ頼もしいしかも非常に解り易い報告でした。

ところで函館からは青函博物館を控えているというものの参加者が少なく、しかも昨年はいかなかったという有様で博物館も御多分にもれず「先発後進」で情けないところですが道立函館美術館の開館や知的レクリエーションを求める観光客などの影響を受けなが

ら、徐々にでも遅れを取り戻してゆくものと思われま

す。又、毛利理事の話にもあった行革の波は函館にも来、特に「すぐ実を結ばない」社会教育施設の公社化が現実味を帯びて浮上し、函館の博物館は内側からも試練を迎えようとしています。

寄り道はこのくらいにして、特別講演では改めて人が使う「ことば」の力というか影を認識させられイエとウチ、どちらを使っているか考え直し、このことばを持つてきた先人を想いました。

昼食後のシンポジウムでは三館の担当者が各々の特色を生かしながら如何にして継続的に普及させていくか、それが学童に対しては如何に進めていくか、又社会がどうそれ

を見ていくのか三者三様の形態ながら単なる仕事を越えた情熱が感ぜられ非常に頼もしく嬉しく思いました。

学芸員部会総会は今年も活発に進められ、熱気に押され気味に参加しました。一日目終了後の懇親会では外も飛び出し和やかな雰囲気の中、夜も更け部屋へ戻っても、二泊目の民宿でも零時頃まで話が弾み、貴重なひとときを過ぎました。

二日目は道博協総会が開かれ中川会長から渡邊会長へ替わられ、新役員が決まり今年度へ新たな体制が整いました。そして来年の大会を函館で開催する事が決まり、新会長の挨拶、前会長へ感謝状が渡され盛況のうち閉会しました。

そのあと施設・史跡見学がありました。私は遠方のため残念ながら参加せず帰途に就きました。今回初めて参加したのに殆んどそれを感じさせない程親しみ易くしかも心に残る大会でした。

## 館園動向

## ◆開拓使麦酒記念館

## ビール博物館が完成

昭和四十五年以来、ビール博物館として親しまれてきた開拓使ビール史料館が、装いも新たに、開拓使麦酒記念館ビール博物館として七月三日にオープンしました。

同博物館は、明治二十三年に建設されたレンガ造りの記念館に、展示スペースを旧資料館の約十倍の千六百平米にひろげ、実物資料や模型資料それに最新の展示・映像技術を駆使し、子供も楽しく理解できるように展示されている。

## 〈所在地〉

札幌市東区北七条東九丁目

## 〈開館時間〉

六・七・八月は午前八時三十分から午後六時、一・五

月、九・十二月は午前九時から午後五時

## 〈開館日〉

年中無休(ただし十二月二十九日から翌年一月五日までは休館)

## 〈その他〉

入館には予約が必要



七飯町郷土史研究会幹事  
公務員 田川 裕治

## 館園紹介

## 株小樽水族館公社

小樽水族館は、昭和三十三年七月、北海道、札幌市、小樽市の三者共催で開催された北海道博覧会の「海の会場」として祝津前浜に開設されました。翌三十四年には、運営を小樽市に移譲され、市立水族館として営業を行なうてまいりました。その後、建物が手狭となり、老朽化も進んできたため、新水族館の移築が計画され、昭和四十八年、株式による半官半民の公社として当社を創立、翌四十九年七月、現在地に新しい水族館を

オープンしました。

当館は、美しい日本海と大自然の景観にめぐまれた、ニセコ積丹小樽海岸国定公園の北端である祝津海岸にあり、近くには、鯨御殿、海水浴場、ヨットハーバー、遊園地などがあり、周辺一帯がマリナーパークとなっています。

展示生物は、トド、アザラシ、オットセイなどの海に生息する動物をはじめ、イトウ、ニシン、チョウザメ、オオカミウオ、ホッケ、サケなどの寒流系水族を中心に、ピラニア、ピラルクなどの熱帯魚、チョウチンウオ、ツバメウオなどのコーラルフィッシュ、

その他、世界各地の魚を三〇〇トンを超える三基のジャンボ水槽を含む、大小八十六の水槽に、三八〇種、二〇、〇〇点を展示しています。

水族館には本館のほかに、イルカスタジアム、ラッコ館のある海獣公園があります。海獣公園では、カモメの呼びよせと豪快なトドのダイビングショー、ベンギンとアザラシのショー。このほか人気者のラッコも仲間入りし、楽しさも倍増しています。

イルカスタジアムでは、ひょうきん者のオタリアとエキサイティングなイルカのショーなど、笑いとスリルがいっぱいです。



本館には、当館が日本で初めて長期飼育に成功し、展示しているネズミイルカがいますが、このイルカは北太平洋と北大西洋の冷たい海に生息する寒流系のイルカで、体長も一・五メートルほど、鯨の仲間ではもっとも小さな種類です。顔つきや、小さな体つきがネズミに似ているのでこの名前がつけましたが、ジャンボ水槽の中を魚の群れと共にダイナミックに泳ぐ姿は、来館者の目を惹きつけています。また、小樽市の姉妹都市であるナホトカ市より寄贈されたロシアチョウザメを含むチョウザメ類や、肺魚などの古代魚を集めた「生きた化石」のコーナーでは、魚類の進化の道しるべとなる魚たちが、悠久の歴史を語るように、時間の流れの中をゆったりと泳ぎ、太古のロマンをゆつくりとお楽しみいただけます。

このほか、二百カイリ問題以後、沿岸漁業の振興が重要な課題となってきましたが、当館でもこの問題に積極的に取り組み、ヒラメ、ウニ、アワビなどの人工増養殖研究を行ない、その種苗生産技術を確立すると共に、種苗を近海に放流し、地元漁業者の大きな期待と注目を集めています。

## 《小樽水族館案内》

所在地・(047)小樽市祝津三丁目三〇三番地

電話番号・〇一三四一三三一

一四〇〇

開館時間・九時～十七時

休館日・十一月四日～翌年四月第二主曜日(開館期間中は休館日なし)

入館料・大人(高校生以上)千二百円、小人(小中学生)五百円、幼児(三歳以上)二百円、団体三〇名以上一割引

(学校団体料金は別途設定)

交通案内・函館本線小樽駅下車小樽水族館ゆき路線バス

約20分、海上観光船小樽港

第3埠頭から運航小樽→祝津航路(4月下旬～10月中旬)、JR北海道セツトキ

つぶ札幌市内・余市・倶知安・旭川・札幌・苫小牧間の主要駅で発売。

(株)小樽水族館公社

学芸員・渡辺 寛



の道しるべとなる魚たちが、悠久の歴史を語るように、時間の流れの中をゆったりと泳ぎ、太古のロマンをゆつくりとお楽しみいただけます。

このほか、二百カイリ問題以後、沿岸漁業の振興が重要な課題となってきましたが、当館でもこの問題に積極的に取り組み、ヒラメ、ウニ、アワ

## 館園紹介

### 財団法人オホーツク水族館

オホーツク水族館は、昭和三十一年六月、網走国定公園の景勝地ニッ岩海岸に開館しました。

当館の設立目的は、オホーツク海の生物や自然に関する知識と思想の普及啓蒙、社会教育施設として水族博物館活動を行うことにあります。建設は市民の基金をもとに官民

による財団が組織化されて誕生、創立以来三十二年を経過しました。この間に三期の整備事業を実施して現在に至っております。

当初の施設は拡充工事によって解体され、その姿は全く現施設は鉄筋コンクリート造三階建の本館、シームレス大型水槽をメインに展示槽十九、研究槽十、屋外海獣プール二面、海獣(ラッコ)展示館などとなっております。

当館はその名称のとおり「オホーツクのさかなや動物たちがいっぱい」をテーマに展示活動を続けており、網走地方



沿岸に棲息する生物が主な資料です。

北国の魚介類は暗色系の種類が多く、暖流系や熱帯系の華やかさに欠けますが、自然に近いディスプレイと種ごとに分類した系統別の展示、解説に重点をおいています。館内の各水槽は沿岸の重要産業種を網羅することにつとめ、本

道の代表種サケ、マス、ニシン、大型カレイ類のオビヨウ、純寒流系のタラ類、漁獲量を誇るホッケやアイナメ、資源が枯渇したタラバ、ズワイ、ハナサキ、ケガニ、その他のものを通年飼育しております。

また、当館の顔になっているオオカミウオはオホーツク海でも網走周辺の沿岸に多くみられるので欠くことのできる資料です。



産業的に未利用の魚類や無脊椎動物を含めると約一五〇種ほどになり、広く観覧に供することによって生物の自然生態を理解していただけるよう担当者はそれぞれ配慮と工夫を続けております。

また、館内の標本展示室の内容は、船舶機器、周辺海域の地質学的解説、北洋海域で収集した魚類標本、その他本道産の貝類標本は殆んどの種類を展示しています。特に、国内で数個といわれる「ヒキタ

バイ」、網走市在住の水谷昭彦氏によって命名した「ミス タニバイ」は専門の方々にも貴重な資料かと思えます。



このほか、当館では二百海里漁業規制の後、沿岸漁業資源の見直しに鑑み、人工的な増殖試験に取り組んでおります。これまでの成果は、エビ類(トヤマ、ヒゴロモ、イバラ、ホツカイ)、魚類ではアツモリウオ、クマガイウオ、ダンゴウオなどの種を孵化、育成することにほぼ成功しており、稚魚は「海を知らない子供たち」として研究槽コーナーに展示し、即物学習の教材に利用しライフサイクルの究明につとめています。

海洋哺乳類関係は、クラカケ、アゴヒゲなど四種のアザ

ラシ類、大型のトド、水産庁から委託された国際保護獣のオットセイ、米政府の許可を受け、アラスカから輸入したラッコなど、稀少動物の保護、繁殖、生態など理解を深める飼育展示を続けております。

水族館は社会教育を基本とした生涯教育の場と考え、いろいろな年代と層の人々が、楽しみながら海の生物に親しむ、自然に関する知識を広める施設となるよう地域性を考慮しながら内容の充実に今後もつとめたいと思います。

### 《オホーツク水族館案内》

所在地・網走市字ニッ岩一番

地 電話番号・〇一五二一四三二

二九七三

開館時間・午前八時三十分

午後五時。開館期間は例年

四月下旬から十月末日まで

期間中無休

観覧料金・大人七百円、中学

生四百円、小学生三百円

交通案内・網走駅より水族館

行バス(網走バス)約十分

(財団法人オホーツク水族館

館長 本間 保)

◆ 博物館・郷土資料館等  
職員研修講座開催

毎年、2月に道立研究所で開催されて来たこの講座は、今年度は9月に次の要領で開催されます。

主題 地域や風土に根ざした博物館・郷土資料館の在り方を探る

主催 道教育委員会  
会場 道立教育研究所  
期日 9月16日～18日(2泊3日)

参加対象 市町村の博物館・郷土資料館等職員、学芸員、社会教育主事・教職員、その他所属長が認められた者。40名

内容 講義・講演・事例発表のほか、研究協議のテーマとして「博物館と学校の連携の在り方を探る」

「博物館・郷土資料館の管理運営上の課題」があげられています。

参加経費 宿泊費不要・食事代二、六〇〇円・写真代五五〇円

事務局日誌

6・6 事務局会議(第26回大会の件、会長出席)、「アイヌ民族文化財学芸職員等研修会」開催打合せ(道ウタリ協会・白老民族文化伝承保存財団、於事務局)

6・11 「道博協ニュース」第19号発刊、道博協第一回役員会(増毛町)

6・12～13 第26回北海道博物館大会・昭和62年度道博協総会(増毛町)

6・16 道博協新役員就任承諾依頼状発送

6・17 第26回大会礼状発送

6・19 補助事業等実績報告書・後援事業結果報告書提出(道教育長宛)

6・24 道博協負担金(会費)値上げにつき会員に通知

6・29 渡邊会長、日博協支部長会議に出席

7・1 「道博協ニュース」20号の原稿執筆依頼状発送、新旧会長道教委に就任

7・2 サッポロビール博物館

館工事落成披露パーティに出席(事務局三野)

7・3 道立近代美術館特別展開会式出席(同前)

7・8 日博協顕彰候補者の申請および「博物館研究」記事の執筆について、同支部会員に連絡

7・7 第2回役員会案内状発送

7・10 事務局会議開催

7・18 釧路博佐藤氏来訪(日博協全国大会打合せ)

7・29 道イベント推進協議会総会に出席(事務局岡)

8・1 第2回役員会(開拓記念館)

8・2～16 道博協シベリア極東地区博物館視察ツアー実施

8・5～7 アイヌ文化セミナー(於白老町、共催事業、渡邊会長、事務局岡・中田出席)

新入会員

〈団体会員〉北海道行刑資料館(樺戸群月形町千二百十九番地)

〈個人会員〉加納裕之

茂、政野、布

施潤一郎、米田秀喜

邊左武郎、渡

朗、駒形哲

〈賛助会員〉株式会社コスモテレカード(札幌市中央区南六条東二丁目)

受贈図書一覽(一)発行年月

◇アイヌ民族博物館だより No.13

◇帯広百年記念館友の会・とかちぼうず創刊号◇道イベント推進協議会・地域イベントの創造◇同上・イベント北海道No.1◇上士幌町ひがし大雪博物館研究報告第9号(62・3)

◇農林水産省農林水産技術会議事務局・農林業技術発達関係資料調査収集事業資料目録

・古農具・民具等(62・3)◇

北海道函館美術館・ルノワールと印象派の巨匠たち展目録

◇北海道近代美術館・イメー

ジ・響展目録◇同上・エルミ

タージュ美術館展目録◇サッ

ポロビール博物館(総入案内)◇アイヌ民族文化財専門職員等研修事業実行委員会・昭和61年度アイヌ民族文化財学芸職員等研修会講義録◇北海道近代美術館・ガラスの美二五〇〇年展目録

◆ 道博協沿革メモ

◆ 会員数の推移

年度	37	45	47	48	49	50	51	52	53
団体	21	43	58	54	63	75	73	71	75
個人	1	—	—	5	14	20	22	29	31
賛助	—	—	—	—	1	3	5	5	6
計	22	(43)	(58)	(59)	78	98	100	105	112
年度	54	55	56	57	58	59	60	61	62
団体	79	82	87	87	91	105	96	102	106
個人	32	33	35	35	36	25	33	69	78
賛助	6	6	6	—	7	8	12	12	15
計	117	121	128	(112)	134	138	141	187	199

【編集後記】

道博協ニュースも昭和四十八年三月創刊以来、二十号になります。紙面の充実した、魅力ある会報にするため忌憚のないご意見をお寄せ下さい。